

総務省承認No.
承認期限平成 年 月 日

整	理	番	号

(この欄には記入しないで下さい)

平成18年度水産加工業経営実態調査票

(平成18年 月 日現在)

この調査は国(水産庁)が水産加工業の振興をはかるための基本調査であり、水産庁が太洋エンジニアリング株式会社に委託して行うものです。税金その他申告者に不利益を生じるような目的には一切使用しません。

事業所の名称			
事業所の所在地	郵便番号□□□-□□□□		
	都道府県	市町村	
代表者の氏名		本社(経営体の本部)の名称	
本社の所在地	郵便番号□□□-□□□□		
	都道府県	市町村	

この調査票のご回答者			
氏名		電話番号	— —

【参考】

水産加工品の種類及び内容について

加工種類	内 容
水産缶詰・瓶詰	水産物を原料とし、これを処理したもの、又は処理したものを調理加工したものを、そのまま若しくはこれらに塩水、調味液等の充てん液を加えたものを缶・びんに密封し加熱殺菌をしたものをいう。
海藻加工品 ：以下の海藻加工品及び寒天	
海そう加工品	海そうを原料とし、これを加工したものをいう。塩蔵わかめ、とろろこんぶ、酢こんぶ、焼のり、焼わかめ、味付のり等が該当する。海そうつくだに、寒天、海そう類の素干しは除く。
寒天	寒天原そうを加熱処理し、その抽出液を脱水、乾燥したものをいう。
水産練製品 ：以下の水産練製品及び魚肉ハム・ソーセージ	
水産ねり製品	魚肉を主原料としてすりつぶし、これに食塩、でん粉、調味料等を加えて練りつぶしたものを蒸煮、焙焼、湯煮、油揚げ等の加熱処理をしたものをいう。やきちくわ、かまぼこ類等が該当する。家庭用風味付けすり身及び冷凍すり身は「冷凍すり身」に計上する。
魚肉ハム・ソーセージ	水産動物肉(肉片、ひき肉)又はこれを主原料とし、畜肉(肉片、ひき肉)を混合したものに、油脂、調味料、香辛料等を加えて練り合わせ、ケーシングに充てん密封した後加熱したものをいう。(魚肉ソーセージにあっては、ハンバーグ風・シュウマイ風等の特殊魚肉ソーセージを含む)
くん製品	魚介類を塩漬けにし、さらにくん煙によってくん煙成分を原料の表面に付着あるいは浸透させ、特有の香味が付与されたものをいう。くん製(スモークサーモン) いか等が該当する。
塩蔵品	貯蔵を目的として、塩蔵したものをいう。堅塩にしたもの、嗜好に重点をおき軽度の施塩をしたもの及び一塩のもの、また施塩して凍結したものも含める。塩蔵魚介類(いわし・さば・さけ・ます等)が該当する。
乾製品 ：次の3種類とする。	
素干し	魚介類をそのまま乾燥したものをいう。凍乾類(低温乾燥したもの)を含める。
塩干	施塩後乾燥したものをいう。
煮干し	煮熟した後乾燥したものをいう。煮熟圧搾脱脂後乾燥し、原形を保持するものを含める。
冷凍水産物	生鮮水産物又はこれを一次的に処理したもの(中間原料)を凍結施設において凍結したものをいう。中間原料としてのフィレー、ブロック等を凍結したものや、冷凍すり身(魚肉落とし身を水洗いし、これに糖類を加えて凍結させたもの)は含めるが、貯蔵性を持たせるため、塩蔵品、練製品(焼ちくわ等)、湯煮品(煮だこ、ゆでがに)等を凍結したものは除く。
水産冷凍食品	水産物を処理加工した後急速凍結し、凍結状態で保持した包装食品をいう。 この場合の「包装」には、生産されたときの形態のまま消費されるときまで流通することを予想して行われる包装をいい、一般家庭用の小袋のもの及び業務用の大袋のものも含めることとする。魚介類を三枚におろし、切身、刺身、むき身等に処理して、そのまま凍結したもの、水産物を主原料としたフライ、スナック、ハンバーグ等を凍結したものが該当する。
節類・削り節(パック包装を含む。) ：以下の節及び削り節	
節類	魚体を煮熟、培乾して乾燥したものをいう。なまり節(なま節)及び培乾しない節を含める。
削り節	かつお、そうだがつお、さば、いわし、あじ等の節及び煮干品等を削機で薄片状に削ったもの、又はこれらの混合品をいう。けずり粉末を含める。

裏面に続きます

加工種類	内 容
塩辛漬物製品	以下の塩辛及び漬物類
塩辛類	水産動物の全部又は一部に食塩を加えて醸熟させたものをいう。塩うに（アルコール漬けを含む。）、いか塩から、かつお塩から等が該当する。
漬物類	生鮮又は加工した水産物をぬか、みそ、こうじ、しょう油、酒かす、米飯等の材料に漬け込み、貯蔵性と風味を出させたものをいう。みそ漬、酢漬、かす漬、うの花漬、松浦漬、南蛮漬等が該当する。塩蔵品に該当するものは除く。
調味加工品	以下の佃煮類及び乾燥・焙煎・揚げ加工品
水産物佃煮類	魚介そう類を主たる原料とし、しょう油、砂糖、水あめ、化学調味料等の濃厚な調味液をもって煮込んだ保存食品をいう。水産物・昆布・その他の水産物によるつくだ煮、やまと煮、しぐれ煮、でんぶ等が該当する。缶・びん詰にしたものは除く。
乾燥・焙煎・揚げ加工品	水産物を調味液につけた後、乾燥、焙焼、又は油で揚げたものをいい、保存性を有するものをいう。（調味液を表面に塗る場合も含む。） いか製品（さきいか、輪いか等）、たら製品（吹雪たら、味付たら等）、ふぐ製品（焼ふぐ、味付ふぐ等）、みりん干し（さくら干し）等が該当する。
その他食用加工品	前掲に該当しない水産加工食品であって次に掲げるものをいう。
惣菜類	水産物を主原料とし、直ちに食用に供することができるように調理加工したものをいう。煮物（煮つけ、うま煮等）、焼物（焼魚、照焼、串焼等）、揚げ物、和え物（酢のもの等）、フライ類等が該当する。
その他	上記くん製、塩辛漬物製品に該当しない水産加工食品であって、調味していないものをいう。きざみするめ、焼干品、さめひれ再加工品、魚介類エキス、食用魚粉（ふりかけ等）等が該当する
飼肥料・魚油	以下の飼肥料及び魚油
飼肥料	水産動物を原料とし、煮熟、圧搾脱水、乾燥、粉碎等の処理を行い、飼料又は肥料として使用する漁かす、魚粉、荒かす類をいう。フィッシュソリュブルは含み、植物性飼料原料を加えた混配合飼料は除く。
魚油	水産動物を原料として採取した油脂をいう。粗製肝油は含み、硬化油、濃縮ビタミン油、EPA等高次加工を行ったものは除く。

注：今回の調査には、すけとうだらの魚体前処理品は含みません。

1. 経営組織について

① 経営組織の形態は次のうちどれに該当しますか。該当するもの1つに○を付けて下さい。

個 人	会 社	組 合	その他

② ①において「会社」経営に該当すると回答された方にお聞きします。
資本金はいくらですか。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 万円

2. 最近1年間における水産加工業の売上高規模はどれくらいですか。
下記から該当するもの1つを選びその番号に○を付けて下さい。

※注：最近1年間は、平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベース。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1・・・ 5千万円未満 | 2・・・ 5千万円以上～1億円未満 |
| 3・・・ 1億円以上～10億円未満 | 4・・・ 10億円以上 |

3. 収支・業況について

① 最近1年間の収支はいかがでしたか。下記から該当するもの1つを選びその番号に○を付けて下さい。

※注：最近1年間は、平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベース。

- 1 赤字 2 収支均衡（とんとん） 3 黒字

② 5年前（平成13年）と現在（平成18年）を比較して業況はいかがですか。下記から該当するもの1つを選びその番号に○を付けて下さい。

- 1 良くなっている 2 やや良くなっている 3 変わらない 4 やや悪化している
5 悪化している 6 不明 7 その他（ ）

4. あなたが行っている業種について、業種別の売上所得割合はどのようになっていますか。
 下表の業種別にその売上所得割合をパーセントで記入して下さい。

注1： 所得とは、売上高からその商品の生産に要した費用総額を控除したものをいいます。また、所得割合は、小数点以下第1位を四捨五入して、整数で、全て加算すると100%となるよう記入してください。

注2： 平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベースとした売上高について記載して下さい。

業 種	所得割合		
水産加工業			
漁 業			
問屋仲買業			
小 売 業			
農 業			
食料品製造業（水産加工業を除く）			
その他（ ）			
	1	0	0

5. 製造する水産加工品目についてご回答下さい。下記の品目の年間売上高について、総売上高に占める各品目のおよその売上高割合をパーセントで記入して下さい。

注1： 水産加工品の内容等については、別添『水産加工品の種類及び内容』を参照してください。また、売上高割合は小数点以下第1位を四捨五入して整数で、全て加算すると100%となるよう記入してください。

注2： 平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベースとした売上高割合について記載して下さい。

品 目 名	売上高割合 %	品 目 名	売上高割合 %
水産缶詰・瓶詰		水産冷凍食品	
海藻加工品		節類・削り節	
水産練製品		塩辛・漬物製品	
くん製品		調味加工品	
乾製品		飼肥料・魚油	
塩蔵品		その他加工食品	
冷凍水産物			

6. 現在（平成18年9月1日時点）において、水産加工部門における操業時の従業員（パート雇用、臨時雇用を含む）数は何人ですか。下表の年齢構成ごとに人数を記入して下さい。

男女別	男性（人）				女性（人）			
年齢別	15～24	25～39	40～59	60以上	15～24	25～39	40～59	60以上
1 常用雇用者								
うちパート・アルバイト等								
2 臨時雇用者								

注： 管理部門等に従事する人についても記入してください。また、種別の定義等は以下を参照してください。

① 常用雇用者：その事業所に常時雇用されている者をいう。期間を定めずに又は、1ヵ月を超える期間を定めて雇用されている者（正職員の他、1ヵ月を超える期間を定めて雇用されるパート・アルバイトなどを含む。）

② うちパート・アルバイト等： 常用雇用者のうち一般に「正社員」「正職員」などと呼ばれている人以外で、「嘱託」「パートタイマー」「アルバイト」又は、それに近い名称で呼ばれている者

③ 臨時雇用者： 常用雇用者以外の雇用者で、1ヶ月以内の期間を定めて雇用されている者、又は日々雇用される者（1ヶ月以内の期間を定めて雇用されているパート・アルバイトなどを含む）

7. 最近1年間の水産加工部門の操業日数は何日でしたか。下記から該当するもの1つを選び、その番号に○を付けて下さい。

※注：最近1年間は、平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベース。

1 100日未満 2 100日～199日 3 200日～299日 4 300日以上

8. 海外展開について

- ① 現在（平成18年9月1日時点）において、海外に生産拠点（水産加工場[委託加工も含む]）を有していますか。該当するものに○を付けて下さい。

1 単独出資・合資・合併等により拠点を有している
2 業務提携等により拠点を有している 3 海外に生産拠点を有していない

- ② ①で1及び2と回答された方にお聞きします。その場合、原材料はどこから調達していますか。また、その生産拠点で製造された加工品はどこに出荷されていますか。

下記のA・Bのそれぞれの項目に占める割合（数量での比率）を記入して下さい。

※：調達先及び出荷先割合は小数点第1位を四捨五入して整数で、A・B別に全てを加算すると100%となるように記入して下さい。

A. 原料調達国割合			B. 製品出荷国割合		
日本から調達	拠点立地国内で調達	第3国から調達	日本へ出荷	拠点立地国内に出荷	第3国に出荷
%	%	%	%	%	%

- ③ ①で1及び2と回答された方にお聞きします。海外の生産拠点で製造される加工品の原材料には主にどのような魚介類を用いていますか。該当するものの1つに○をつけてください。

1 イカ 2 サケ 3 サバ 4 その他（ ）

9. 現在、（平成18年9月1日時点）において、経営上の借入金がありますか。ある場合は、その残高はいくらですか。借入機関はどちらですか。運転資金と設備資金ごとの金額及び借入先金融機関ごとの割合をパーセントで記入して下さい。（借入金が0円＝無い場合は、借入金残高の欄に0と記入）

注：借入金残高割合は、小数点以下第1位を四捨五入して整数で、全て加算すると100%となるよう記入して下さい。

	借入金 残高 (万円)	借入先金融機関別借入金残高割合 (%)						
		都市銀行 地方銀行	信用金庫 信用組合	農林漁業 金融公庫	中小企業 金融公庫	国民生活 金融公庫	商工組合 中央金庫	その他
運転資金								
設備資金								

10. 原料魚等の使用状況について

- ① 原料魚（生鮮・冷凍等）または半製品を原料とした場合に、使用した原料魚または半製品の最近１年間の使用量（トン）及び調達先別割合（パーセント）を種別に記入して下さい。

注１： トン数、パーセントとも、小数点以下第１位を四捨五入し、整数で記入してください。また、調達先別割合は、全て加算すると１００％となるよう記入してください。また、「半製品」とは、原魚に加工処理を施したもの（すり身、フィレー、フィッシュブロック、煮干し、節、ダルマ、塩蔵・乾燥の魚介類、魚卵及び魚粉・魚粕等）であって、単に除頭、除内臓及び脱殻等の一次的に処理したもの（生鮮、冷蔵又は冷凍のものであるかどうかを問いません。）を除きます。

注２： 最近１年間は、平成１７年９月１日～平成１８年８月３１日までの期間における直近の決算期をベース。

魚 種		使用量（トン）	調 達 先 別 割 合（％）			
			地 元	県 内	県 外	輸 入 物
原 料 魚 （生 鮮・冷 凍 等）	いわし					
	さば					
	ぶり					
	あじ					
	さんま					
	すけとうだら					
	まだら					
	あきさけ					
	ほっけ					
	かつお					
	まぐろ					
	たい					
	かれい					
	かに					
	えび					
	かき					
	いか					
	たこ					
	いかなご					
	ほたてがい					
その他の魚介類						
こんぶ						
わかめ						
その他の海そう類						
半 製 品	冷凍すり身 （生すり身・落し身を含む）					
	海藻乾燥品					
	乾燥・半乾燥魚介類					
	フィレー・切身					
	魚卵					
	その他 （ ）					

- ② 原料（原料魚及び半製品）をどのような方法で仕入れていますか。下記のうち該当するものの全ての番号に○を付けて下さい。

直接仕入れ	自家生産	1
	直接生産者から	2
	市場の卸問屋から	3
	仲卸・問屋から	4
	加工業者から	5
	貿易商社から	6
	自ら輸入	7
共同仕入れ（組合等から）		8
その他（ ）		9

11. 製品をどのような方法で販売していますか。下記の販売方法別にその販売割合をパーセントで記入して下さい。

注：平成17年9月1日～平成18年8月31日までの期間における直近の決算期をベース。

販売割合は、小数点以下第1位を四捨五入し整数で記入し、合計が100%となるよう記入してください。

販 売 方 法	販売割合%
市場への直接出荷	
問屋への直接出荷（市場以外）	
組合を通じて販売	
小売店・量販店・生協へ直接販売	
外食産業、給食産業へ直接販売	
高次加工業者へ直接販売	
消費者への直接販売（自家店頭）	
消費者への直接販売（通信販売[インターネット販売も含む]）	
その他（ ）	
合計	100

12. 今後5年以内の設備投資計画について記入して下さい。

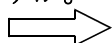
- ① 設備投資（土地取得を除く。）について、下記のうち、該当するものの1つの番号に○を付けて下さい。

- 今後5年以内に設備投資を行う予定である。
- 今後5年以内に設備投資を行う予定はない。

- ② ①で1に○を付けた方（今後5年以内に設備投資を行う予定のある方）に、以下のア～エについて、お聞きします。

ア その投資額はどの程度を予定していますか。

投資予定額はおおむね



万円

イ その設備投資先は、下記のうちどれですか。該当する全ての番号に○を付けて下さい。

- | | | | | | |
|---|----|---|---------|---|---------|
| 1 | 地元 | 2 | 所在都道府県内 | 3 | 所在都道府県外 |
| 4 | 海外 | 5 | その他 () | | |

ウ その設備投資の内容は下記のうちどれですか。該当する全ての番号に○を付けて下さい。

- | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|---|--------|---|----|---|-----------|
| 1 | 事務所 | 2 | 工場 | 3 | 倉庫 | 4 | 冷凍冷蔵施設・設備 |
| 5 | 廃棄物（排水含）処理施設・設備 | 6 | 研究・検査室 | | | | |
| 7 | 衛生管理設備（例：トイレ・手洗い場・消毒槽・使用水等殺菌装置、空調施設等） | | | | | | |
| 8 | その他 () | | | | | | |

エ 今後5年以内に予定しているその設備投資の目的は下記のうちどれですか。該当する全ての番号に○を付けて下さい。

- | | | | |
|----|--------------|---|-------------------|
| 1 | 新製品を開発するため | 2 | 規模・能力（新技術開発）拡大のため |
| 3 | 品質・衛生管理向上のため | 4 | 公害防止（環境対策）のため |
| 5 | 合理化・省力化のため | 6 | 原材料の転換を図るため |
| 7 | 研究・開発のため | 8 | 老朽化施設の維持・補修のため |
| 9 | 共同化・企業合併のため | | |
| 10 | その他 () | | |

13. 下記の1～18のうち、直面する課題がある場合は、下記回答表の短期的・長期的課題別に該当するもの全ての番号に○を付けて下さい。

- | | | | | | | |
|----|-----------------------------|----|--------------------|----|-------------|---------|
| 1 | 原材料の減少 | 2 | 価格・品質等の競争激化 | 3 | 売れ行き不振 | |
| 4 | 利益率の低下 | 5 | 人件費の上昇 | 6 | 従業員確保の困難 | |
| 7 | 後継者の育成 | 8 | 原料価格の高騰 | 9 | 販路開拓 | |
| 10 | 外国産品との競合 | 11 | 販路流通の経費悪化 | 12 | 出荷先からの低価格要求 | |
| 13 | 包装資材の高騰 | 14 | 容器（トレイ）等の廃棄等（環境対応） | | | |
| 15 | 加工残さ・排水処理対応 | 16 | 一般的衛生管理（HACCPを含む） | | | |
| 17 | 設備投資による資金繰りの悪化 | | | | | |
| 18 | 製品表示（日付表示・一括表示・原料原産地表示）への対応 | | | | | |
| 19 | その他 () | | | | 20 | 特に課題はない |

短期的課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
長期的課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

14. 水産加工業の経営について、今後5年間ではどのような考えを持っていますか。下記のうち該当するもの1つを選びその番号に○を付けて下さい。

- | | | | |
|---|---------------------|---|-------------------|
| 1 | 事業規模を拡大したい | → | 15-1の間にお答えください。 |
| 2 | ほぼ現状どおりの規模及び内容で続けたい | → | 15-1の間にお答えください。 |
| 3 | 事業規模を縮小したい | → | 15-1、3の間にお答えください。 |
| 4 | 事業転換したい | → | 15-2、3の間にお答えください。 |
| 5 | 廃業したい | → | 15-3の間にお答えください。 |

15-1. 14の問で、1・2・3とお答えになった方にお聞きます。今後の経営方向として、どのようにお考えですか。下記のうち、該当するもの全ての番号に○を付けて下さい。

- 1 新製品（自社が手がけていない既存の製品を含む。）の開発・導入に努めたい
2 生産工程を合理化したい 3 高性能の機械・装置を導入したい
4 原料魚の転換を図りたい 5 新しい販売ルートを開拓したい
6 共同化若しくは協業化したい 7 人件費を削減したい
8 原料魚（海そうを含む。）の共同購入を推進したい
9 従業員（外国人労働者（研修・実修生を含む。）を含む。）の確保を図りたい
10 その他（ ）

15-2. 14の問で、4とお答えになった方にお聞きします。どのような事業分野に転換したいとお考えですか。下記のうち、該当するもの1つを選びその番号に○を付けて下さい。

- 1 同じ水産加工分野 2 水産加工分野以外の漁業等の水産分野 3 水産分野以外

15-3. 14の間で、3、4、5 のいずれかに○印を付けた方にお聞きします。その理由について該当するもの全てに○印を付けて下さい。

- 1 原料の入手が困難 2 労働力の確保が困難 3 後継者が不在
4 収益の減少 5 資金繰りの悪化（借入金）の返済が困難
6 新たな投資が困難（品質・衛生管理高度化、技術開発、新製品開発、販売対策等）
7 内外の販売競争が激化（対輸入製品、対大手メーカー等）
8 その他（ ）

16. 最近1年間において経営コスト削減に取り組みましたか。

- 1 取り組んだ 2 取り組まなかった

➡ 1に○を付けた方にお聞きします。どのようなコスト削減に取り組まれ、また取り組んだ各項目の効果はどうでしたか。下表の右5欄の該当するところに○を付けて下さい。

項 目	非 常 に 効 果 が あ っ た	あ る 程 度 あ る 果 が あ っ た	あ ま り 効 果 は な か っ た	効 果 は な か っ た	効 果 は 不 明
人件費関係					
事務費関係					
原料資材調達関係					
生産工程関係(機械設備含む)					
施設関係 (土地含む)					
物流 (配送・配達) 関係					
販売関係 (広報含む)					

17. 昨今の石油高騰による経営上の影響等がある場合は、下記のうち該当するものすべての番号に○を付けて下さい。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1 原料魚の価格 | 2 原料魚以外の材料費（調味料を含む）の価格 |
| 3 水産加工用機械の価格 | 4 輸送料金 |
| 5 梱包材（発泡スチロール等）の価格 | 6 光熱費 |
| 7 包装材（ビニール等）及び食品用トレイ（ポリスチレンペーパー）の価格 | |
| 8 その他（ ） | 9 特に影響はない |

18. 国の行う施策に関して

① 水産加工業の振興のために、国（水産庁）が行う施策に関する要望がありますか。

- 1 ある 2 ない

② ①で1と回答された方にお聞きします。

具体的な要望がある場合は、下記の「国（水産庁）が行う施策に関する要望（※1）」に関する選択肢1～11のうち、該当するもの全てについて、その実現化のための手段（※2）及び具体的内容（※3）を記入して下さい。

注：※2の手段は、下記の「要望実現化のための手段」の選択肢1～5の中から選び、記入して下さい。

※3の具体的内容は、具体的アイデア等がありましたら、記入して下さい。

要望実現化のための手段

- 1 税制（税金面） 2 融資 3 補助金 4 法制化 5 その他（ ）

国（水産庁）が行う施策に関する要望（※1）	手段（※2）	具体的内容（※3）
1 国産原料確保のための支援		
2 外国産原料確保のための支援		
3 販路拡大のための支援		
4 設備投資のための支援		
5 衛生対策のための支援		
6 環境対策のための支援		
7 新製品開発のための支援		
8 加工技術開発のための支援		
9 水産加工業に関する情報提供・照会（優良事例等）		
10 水産加工品に関するポータルサイトの開設（消費者に対する製品検索サービス等）		
11 その他（ ）		

19. 収益・収支状況及び製造原価内訳についてお聞きます。

※ 以下の財務諸表関係の設問については、貴社で作成されている直近決算期における既存の同様書類がある場合には その書類の写しを代替として、提出して頂いても結構です。

1. 貸借対照表

平成 年 月

項 目				金額(千円)
資 産	流動資産	現 金 ・ 預 金	1	
		売 上 債 権	2	
		棚 卸 資 産	3	
		そ の 他 流 動 資 産	4	
		計 (1～4の計)	5	
	固定資産	土 地 ・ 建 物	6	
		設 備 資 産	7	
		そ の 他 固 定 資 産	8	
		計 (6～8の計)	9	
	繰 延 資 産	10		
	合計 (5+9+10)			11
負債・資本	流動負債	仕 入 債 務	12	
		短 期 借 入 金	13	
		そ の 他 流 動 負 債	14	
		計 (12～14の計)	15	
	固定負債	長 期 借 入 金	16	
		そ の 他 固 定 負 債	17	
		計 (16+17)	18	
	自己資本	資本金・出資金又は元入金	19	
		法 定 準 備 金	20	
		剰余金 (当期利益を除く)	21	
		当 期 利 益	22	
		計 (19～22の計)	23	
合計 (15+18+23)			24	

注:1) 資産合計(11)と資本合計(24)及び各々の内訳が一致するよう端数を調整してください。

2. 損益計算書

平成 年 月 ~ 年 月

項 目				金額（千円）	
営 業 利 益	売 上 高	製 品 売 上 高	1		
		加 工 収 入 高	2		
		純 売 上 高（1+2）	3		
	売 上 原 価	期 首 製 品 棚 卸 高	4		
		当 期 製 品 製 造 原 価	5		
		期 末 製 品 棚 卸 高	6		
		(4+5-6)	7		
	総 利 益（3-7）			8	
	販 売 費 及 び 管 理 費	人 件 費・福 利 厚 生 費	9		
		支 払 運 賃・荷 造 費	10		
		広 告・宣 伝 費	11		
		製 品 保 管 料	12		
		従 業 員 教 育 費	13		
		研 究 開 発 費	14		
		そ の 他 販 売 費 及 び 管 理 費	15		
	合 計（9～15の計）			16	
(8-16)			17		
経 常 利 益	営 業 外 損 益	受 取 利 息	18		
		そ の 他 営 業 外 収 益	19		
		支 払 利 息	20		
		そ の 他 営 業 外 費 用	21		
	(17+18+19-20-21)			22	
税 引 前	特 別 損 益	特 別 利 益	23		
		特 別 損 失	24		
	当 期 利 益（22+23-24）			25	
法 人 税 等 引 当 額			26		
当 期 利 益（25-26）			27		

注:1) 各項目間の計算値が一致するよう端数を調整してください。

2) 当期利益(27)は貸借対照表の当期利益(22)と一致します。

3. 製造原価内訳

平成 年 月

項 目				金額（千円）	
製 造 総 費 用	直 接 材 料 費	期首直接材料棚卸高	1		
		当期直接材料仕入高	2		
		期末直接材料棚卸高	3		
		計（1+2-3）	4		
		外 注 費	5		
		直 接 労 務 費	6		
		そ の 他 直 接 経 費	7		
		計（4～7の計）	8		
	間 接 材 料 費	間 接 材 料 費	9		
		間 接 労 務 費	10		
		製造 経費	減 価 償 却 費	11	
			水 道 光 熱 ・ 燃 料 費	12	
			そ の 他 製 造 経 費	13	
		計（11～13の計）	14		
		計（9+10+14）	15		
	合計（8+15）			16	
期 首 仕 掛 品 棚 卸 高			17		
期 末 仕 掛 品 棚 卸 高			18		
当期製品製造原価（16+17-18）			19		

注:1) 当期製品製造原価欄(19)には、2の損益計算書の当該項目欄(5)に記入した数値を記入してください。

2) 当期製品製造原価の内訳が一致するよう端数を調整してください。

ご協力ありがとうございました。以上の質問のほかに、水産加工業振興策について、ご意見等がございましたら、下欄に自由にご記入ください。